

読売理工医療福祉専門学校

学校関係者評価 報告書

2025 年度・第 2 回

2025 年 12 月 8 日

学校関係者評価委員会

目次

1. 学校関係者評価	1
2. 2025 年度 第 2 回学校関係者評価委員会	1
3. 学校関係者評価委員会委員および委員会参加者	1
4. 議事	2
5. 配布参考資料等	5
6. 委員からの評価と意見（評価点：5 点満点）	6
7. まとめ	8

1. 学校関係者評価

学校関係者評価は、卒業生・保護者・地域住民・企業役職員等の学校関係者を委員として選任し、学校が実施した自己評価結果と取り組みに対する評価をする。

委員は以下の項目について評価し、教育活動と学校運営の改善に向けて学校に助言する。

- ・自己評価の内容が適切かどうか
- ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか
- ・学校の重点目標や具体的方策が適切かどうか
- ・学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適切かどうか

2. 2025 年度 第 2 回学校関係者評価委員会

- ・日 時：2025 年 12 月 8 日（月）17：00～18：00
- ・場 所：読売理工医療福祉専門学校 306 教室

2025 年度における各学科の各評価項目の取り組み状況と重点目標に関する取り組み状況を報告し、委員の方々に評価とご意見・ご提案を頂いた。

3. 学校関係者評価委員会委員および委員会参加者

【学校関係者評価委員】（敬称略・順不同）

- ・渡部俊一：読売理工専校友会会長
- ・堀畑尚子：放送映像学科 1 年生保護者
- ・杉田明治：文京区礪川地区町会連合会 会長
- ・羽場宏祐：株式会社インターナショナルクリエイティブ 取締役最高顧問
- ・鹿毛信一：河端建設株式会社 取締役 常務執行役員 工事統括部長
- ・小嶋 守：小嶋電工株式会社 代表取締役（欠席）
- ・伊藤大輔：医療法人社団 愛友会 伊奈病院 医療技術部 臨床工学科 係長
- ・大竹信子：社会福祉法人 恩賜財団済生会 港区立特別養護老人ホーム 港南の郷
- ・松浦正典：公益社団法人 日本測量協会 測量継続教育センター 教務部 次長

【学校側委員】（オブザーバ参加含む）

- ・藤本昌弘：理事長
- ・渡辺 亮：法人本部長
- ・蟹江卓也：理事 法人本部財務室長
- ・坂本 浩：事務局長
- ・水落清治：校長
- ・小川貴之：校長補佐兼建築系学科長
- ・鈴木和弘：放送映像学科長
- ・栗島正晴：電気電子学科長
- ・沢田雄太：臨床工学科長
- ・曾我辰也：介護福祉学科長
- ・金田和樹：TVディレクター学科長
- ・増田孝博：ITエンジニア学科
- ・篠宮浩司：映像クリエイター学科設立準備担当

4. 議事

(1) 挨拶 藤本 理事長

(2) 報告

①学校教育法改正について

今回の改正の対応として本校では令和 8 年 4 月 1 日より「学年制による単位制」とした。令和 8 年 4 月入学者から対象とし、従来通りの学年制を設けたうえで、学習時間に関する基準を単位制にする。2 年課程は 62 単位、3 年課程では 93 単位が卒業に必要な最低単位となる。これに従い各学科のカリキュラムがこれまでの授業を減少させることがないようにし、それに合った卒業要件に変更をする。

- ・入学時に学年制による単位制となっていることを説明する。
- ・入学時に進級時に必要な単位が取得できない時に、取得できている単位を認めていても留年となり、留年時のすべての科目を再履修することが基本であることを説明する。
- ・最終学年で単位不足で卒業できない場合は、卒業を保留として、次年度に必要な科目のみ履修し、取得が認められたときに卒業とする。科目履修の授業料を支払う。
- ・最終学年で単位不足で卒業できない場合は、次年度に卒業に必要な科目を履修し、取得が認められた時に卒業とする。但し授業料は年間の授業料を支払う。
- ・最終学年で単位不足で卒業できない場合は、次年度に卒業に必要な科目を履修し、取得が認められた時に次年度に卒業とする。科目履修の授業料を支払う。
- ・科目履修の場合には科目履修生規定に従う。

②各学科の近況報告

〈放送映像学科〉

- ・退学者等について

2025 年度は、1 年生 32 名、2 年生 47 名、計 79 名で開始。

現在 1 年生 1 名、2 年生 1 名、計 2 名が退学となった。理由としては、1 生 1 は留学生で出席不良の為に本国の母親と協議し、帰国することになった。2 年生 1 名は進路変更による退学。

- ・就職状況

現在の進捗状況は就職希望者が 44 名、内定者 26 名、活動中 18 名、内定率 60% 引き続き個別指導を実施し、目標達成に向け学科教員全員で取り組む。

〈建築学科〉

- ・10 月末時点、退学率 4.3% (退学者 2 名)。出席不良、課題提出不良者については、適宜担任を中心に連絡、面談を行っている。出席率が 80% を切る学生が数名いるため、進級・卒業に向けて担任を中心にフォローしていく。
- ・10 月末時点、57.9% (就職希望者 19 名中 11 名内定)。残り 8 名は、インターン・面接など順次活動中。施工コースでは授業の一環としてインターンを課している。

〈建築科〉

- ・10 月末時点、退学率 7.1% (退学 3 名、除籍 1 名) すべて 1 年生。仕事との両立が難しく登校が困難になって退学を選択する学生が多い。出席不良、課題提出不良者については、適宜担任を中心に連絡、面談を行っている。仕事などで一時的に登校が難しくなった学生については、追再試などのフォローと共に、休学を勧めるなど柔軟な対応を行っている。
- ・今年度は、就職希望者なし。ほとんどが日中仕事をしている社会人であり、現在の仕事と比較検討した上で、最終的に継続勤務を選択する学生が多い。就職 (転職)

希望の学生については、適宜就職担当より求人を案内すると共に、担任が個別に相談に乗る体制を整えている。

〈電気電子学科〉

- ・ 11 月末時点で退学率 0%（退学者 0 名、除籍 0 名）。2 年生で出席率が 2/3 を切る学生が 3 名いる。本人と連絡を取るとともに、保護者にも連絡を取ったが、残念ながらあまり改善が見られず、卒業は困難と思われる。
- ・ 卒業が可能と思われる学生の 11 月末時点での就職率は 86.7%（就職希望者 15 名中 13 名内定）。未決定の 2 名は就職活動中。年度末までには内定が決まるとと思われる。アドバイスができれば積極的に行い、早期の内定獲得を目指している。卒業が困難と思われる学生 3 名のうち 1 名は内定をもらっていて、2 名は就職活動を行っていない状況。

〈臨床工学科〉

- ・ 11 月末時点での退学率：4.5%（退学 3 名、除籍 0 名）。（1 年生：3 名、2 年生：0 名、3 年生：0 名）。欠席や遅刻した学生に対して担任が電話やメールで連絡を取り、理由などを把握した上で、指導を行っている。内容によっては保護者に来校していただき、話し合いを実施することもある。成績不良者に対しては面談を実施し、授業時間外を利用して補講などを行っている。近年の学生は成績不良以外にもメンタルケアが必要な学生が散見されるため、そのような学生に対しても都度面談を実施するようにしている。
- ・ 11 月末時点での就職内定率：22.2%（就職内定者：6 名/27 名）。就職活動については、できる限り早いタイミングで動く様、学生には指導を行っている。国家試験合格が難しいと予想される学生については、勉強を優先させるケースもある。（国家試験を合格しない限り、内定をもらっていたとしても病院で勤務することができないため。）就職担当教員・担任を中心に受験病院の相談や履歴書添削、模擬面接などを実施し、早期内定を獲得できるよう学科を上げてフォローアップに努めている。企業・病院毎の就職説明会もできる限り多く実施出来る様、調整している。（善仁会グループ、上尾中央医科グループ、フィリップスなど）就職活動のポイントなどについて、先輩技士からの話を伺える機会を設けるように調整している。（東京都臨床工学校技士会と連携）

〈介護福祉学科〉

- ・ 10 月末時点、退学率 0%（退学者 0 名）。成績不良の学生に対しては、個別補講等で引き上げに努めている。出席状況や学業について課題のある学生に対しては、保護者に連絡の上、情報共有を図り、協力いただくことで状況の改善に努めている。職業訓練生 1 名（体調不良で欠席が多い）には、電話連絡をはじめ試験期間の延期、実習施設との調整等で対応している。職業訓練生 1 名（素行不良で実習施設とトラブル）には、本人との面談をはじめ実習施設担当者との情報共有等で出来る限りのフォローをしている。
- ・ 10 月末時点、内定率 24.1%（就職希望者 29 名中 7 名内定）。昨年度同時期と比較して低いため、急ぎ担任による一斉面談を実施している。特に新卒者 9 名、職業訓練生 7 名の動きが鈍いため、面接時に就労の意思確認等を行っている。施設見学会等の参加状況を把握するため、「就職活動状況表」の提出を促している。

〈ITエンジニア学科〉

- ・ 本年度 11 月末現在、健康上の理由でやむを得ない前期末の退学者が 1 名のみ。保護者ともしっかりと話しあい、医師からの指示も尊重して対応した。年度末に向けて出席日数や試験結果による成績不良については、補講などできる限りの対応をして

いく予定。何より卒業まで辞めたくない学校を目指し、学生の満足度を向上させることを第一に取り組んでいきたい。近年は円安によって、留学生の学費納付状況が良好である。国際的な経済状況の変化によっては、大きな影響がでる可能性は大いに考えられる。その際の対応は今後の課題として考えていきたい。

- ・現在就職希望者の内定状況は順調です。IT人材に対する需要は依然として高く、今後も売り手市場となると思われる。一方で早期離職率が他業種に比べ高いと感じられる一面もあり、今年度4月入社の卒業生にも退職者が出ているもよう。できる限り希望にあった就職先に出会えるように、指導を心がけている。
留学生の就職についてもレベルを上げ、よりよい環境で働けるサポートを心がけたい。そのために、教員と企業の面談の際は、留学生への理解と情報交換を積極的に行っている。

(3) 質疑

- ・(委員) 放送・TVの入学者が減、その理由は？
→チャンネルに対するあこがれがなくなっているのではないかな。
映像クリエイター学科になるので、放送技術＋プロダクションにも対応できる学科を目指す。入学希望者については、底を付いた印象なので、技術と制作が合体して総合メディアとしての学科を目指す予定。
- ・(委員) 放送のメディア自体が変化。スマホだけで情報を取得している若者が多い。スマホなどに対応したメディアにしなければならない。問題は、自身のスマホから自身の趣味嗜好に当てはまる情報しか流れない。犯罪などのニュースを知らない。
「放送」という言葉が固い。グローバルな視点で学科名を考える必要がある。内部でコース分けなどする必要があるのではないかな。
- ・(委員) 卒業生に対する支援について教えて欲しい。
→内定後転職希望の卒業生については、個別に対応している。
季節に関係なく、随時募集している企業を案内するなどサポートしている。
就職の解禁が早くなっている。定時採用から通年採用に企業側が変化している。
企業と学生を繋げる対応を行う。
- ・(委員) 企業側から、退職する社員の補填を行う際、転職サイトではなくて卒業生のマッチングができるシステムがあると良い。
→学科で検討します。
- ・(委員) 現場では実技が重視される。現場見学など開催できるのであれば、是非学生に見て頂く機会を催せれば。
→検討します。
- ・(委員) 建設業は人手不足。就職率も上がっている。外国の協力は不可欠。御校は前向きな取り組みをされているので評価している。
- ・(委員) 留学生比率を5割にしてほしい。職場で、同じ国同士になると母国語になってしまう。
- ・(委員) 大手の建設会社でも、高校生から青田刈りが続いている。学校としての特徴を出す必要があるのではないかな。
→高校訪問やガイダンスに加え、特徴を伝えるべく対応します。
- ・(委員) 職場環境が過酷なので、インターンシップの充実
→1日ではなく、2～3日のプログラムへの参加を積極的に誘導する。
- ・(委員) 学生数が少ないところが気になる。認知度が課題。就職については好調。男臨床工学科の女比は？
→半々。

- ・(委員) 看護と臨床工学士で給与は変わらないなどをアピールすると良いのでは
- ・(委員) 介護のなり手がいなくなっている。学校もなくなっている。
- ・(委員) 魅力のない仕事と思われがちなので、魅力のアピールは現場、学校が必要では。

(4) 意見、講評

- ・(委員・保護者) 就職について、リクナビなどのサイトで見ていると聞いた。学科の求人について、学生に知られていない印象があるのだけれどどうか。
→求人に関しては、学科向けに来ている。来たタイミングで学生向けに **Forms** にアップロードして、各学生が見られる環境を整えている。紙媒体も用意してある。求人数は他学科に比べると少ない。
- ・(委員・松浦)
日本語講座について※この部分、途中退出してしまいました。
- ・(委員・杉田)
学校と地域との交流を引き続き行っていきたい。
9/13・14 お祭り、御神輿の担ぎ手を募集します。
12/7 文京マルシェ お魚号？プロレスなど実施予定
地下広場完成。大江戸線との直結。地下広場活用の企画も出してほしい。
- ・(委員・渡部)
放送・・・ドローンを使った授業を取り入れる予定？検討してほしい。
→ドローンもプログラムとして計画中
その他・・・設備環境について、どういう状況なのか。アピールのポイントを検討する必要があるのでは。
→予算計画に応じて対応している。
臨床・・・現場では若い人が多い。経験年数を経た年生層が少ない印象。キャリアアップのイメージは。
→(伊藤委員) 50代、60代が圧倒的に少ない。年上は、後進の育成教育や、病院の経営に関わることになる。
- ・(渡部委員) 全体を通じて、自身の将来象が見えないから、とっつきにくいのではないかな。
(沢田) OCなどで、卒業生のインタビュー記事を説明したりしているが、イメージしづらい
介護・・・きっかけの一つとして、アピールが足りないのでは。
(中村) 介護について、給与面などについてオープンキャンパスなどで説明し、理解に努めている

5. 配布参考資料等

- 資料 1 第1回学校関係者評価報告書
- 資料 2 報告事項ならびに取組み事項
- 資料 3 就職状況
- 資料 4 各学科の状況

6. 委員からの評価と意見（評価点：5点満点）

評価に関して段階（5＝申し分ない・4＝十分である・3＝標準的・2＝努力を要する・1＝不十分である）

①教育活動について（評価 4.17）

- ・学校教育法の改正にしっかり対応していると思う。
- ・専門学校では様々なレベルの学生が在籍するため、単位制になっても学年制を行う事は賛成である。
- ・学校行事やイベントへの参加など、学業以外でも様々な取り組みをしていることは学生にとっても良いことだと思うので、これからも続けて欲しい。
- ・企業のDXが進む今日、AI（人工知能）が進化しています。これからの少子化に伴い企業が求める人材は技術力のマルチ性すなわち複数の業務（カメラ、音声、他）をこなせる人材の育成です。そのためには人工頭脳にはできないコミュニケーション（人間力）が、より重要になります。新設の映像クリエイター学科はマルチ業務の専門以外の知識を習得するのに大いに役立つとわれます。期待しています。
- ・全体を意識しながらも各個人に寄り添った教育をされていらっしゃる認識ができ、先生方を中心に質の高い教育を実現するべく活動をされていらっしゃると感じました。
- ・第1回の評価委員会で配布された、「自己点検評価報告書」によると「学科の修業年限に応じた教育到達レベルについて、達成が難しい学生が年々増えているように感じる」と記載されていました。私自身も今年度の非常勤講師の活動を通じ、基礎的な内容の理解に苦勞する学生が増えている印象を受けております。こうした状況には、近年の留学生比率の上昇が、その一因になっていると捉えております。とはいえ、留学生の中には非常に優秀な学生もあり、学習意欲や学習姿勢において高く評価できる方も見受けられます。そのため、現場の先生方におかれましては、学生の背景や理解度の幅が広がる中で、授業の進め方や指導方法について、日々さまざまな葛藤やご苦勞があるものと拝察いたします。
- ・教育活動の充実は、入学者の確保や除籍退学率の低下、就職率の向上に現れてくると思いますので、引き続き強化して取り組んでいただきたいと思います。
- ・留学生に対する日本語の指導、生活面での助言等、十分に対処されていると思う。あとは日本の学生をいかに増やすかが課題。学校の魅力をはっきりと表現にもらいたい。

②重点項目について（除籍退学率の目標を7%以下）（評価 4.67）

- ・除籍退学率はどの科も目標値を達成しており、さらにそれ以上の結果を出している。
- ・学校の先生方の学習面、精神面のサポートへの努力がこの結果だと思うので、大いに評価出来る。
- ・引き続き学生へのケアに取り組んで欲しい。
- ・除籍退学率 9.32%→7.81%、毎月の学科長会議等による成果が出ている。
- ・目標数字を達成できる状況と認識でき、申し分ないと感じました。
- ・全学科において、除籍退学率が低く、目標も達成されている。問題のある学生へのフォローも、適切に行っていると伺える点も評価いたします。
- ・入学後に、向き不向きに気づく学生もいると思いますので、一定数の除籍退学者は致し方ないことだと思います。その中で目標を達成されているため、個々の学生に向き合う先生方の指導や対応などが良いのでだと思います。

- ・除籍多額に関しては十分に教員方の努力が実っていると思う。この状態を続けてもらいたい。

③重点項目について（3月末の就職内定率は95%を超える）（4.17）

- ・各科就職に関しても好調であり、進学や特別な事情がない限りこの時期にほぼ内定していることはとても評価出来る。
- ・臨床工学科に関し、少し遅れている印象がある。学業へ不安はある学生に関しても、見学は早いうちからどんどん行ってもらい、病院の雰囲気や就職活動を体験することが、就職や学業への意欲にもつながると思う。病院を受験しないまでも見学は早めに行くと良いと思う。
- ・就職率98.7%、時代に対応した映像クリエイター学科の新設はさらに広い分野への道が開けると期待しています。
- ・就職、進学、帰国といった多様な進路に対して、学生が複数の選択肢を持てるように、またそれぞれの希望を実現できるようにフォローを積極的に、能動的に実施されていच्छゃると感じました。
- ・中間報告ではあるが、一部学科を除き現時点での内定率は高い水準にあると考えます。
- ・内定率100%を目標として取り組まれていることは素晴らしいと思います。
- ・一方で、就職後の定着率についても確認したいところです。企業の魅力度と言ってもよい定着率ですが、卒業生がそういった魅力ある企業に就職しているといった評価にもなり、学生にとって就職する上での判断材料にもなると考えます。
- ・学科によって数値にばらつきありますが、はやめに就職活動を行うよう学校側でフォローされていることが伝わりました。学生が安心して希望の企業に就職できるよう今後も取り組んでください。
- ・人材不足で学生優位な面はあるが、就職もきちんと決まって良い。永く続くよう学生の努力を願う。

④全体評価（4.17）

- ・重点目標に関しては、先生方の努力もありとても向上していると思う。
- ・これからは、子供の減少に伴う学生数の減少や大学との共闘など、学生を確保する事が課題になってくる。
- ・大学との違いである学生へのケアや学費のサポート、就職先の充実などをSNS等でしっかりアピールし、学生確保の強化を図って欲しい。
- ・常に時代に対応した学校運営に期待しています。
- ・日本人、留学生と多様な学生に対して、多様な進路に対応し実現すべく、語学教育をはじめ学生に寄り添った活動を行っていच्छゃることを感じられ、先生方のご負担も大きいかわかれますが、学生の方々に先生方の質の高い教育が伝わり、目標数字を達成できているのではないかと認識しました。継続していただくと共に語学教育を含めた留学生フォローの大切さと難しさも感じました。
- ・全体的に真摯に取り組まれており、高く評価いたします。
- ・学生確保につきましては、恒久的な課題と考えますが、読売理工ならではの強みを活かし、差別化を図ることで、より安定した募集につながるものと期待いたします。
- ・また、ホームページ、instagram、tiktokなどを活用し、積極的に情報発信を行っている点も評価いたします。これらの取り組みが、学校の魅力向上と募集強化につながることを願っております。

- ・他の方もおっしゃっていましたが、学校教育法の改正があっても現状の単位数を減らすことなく学びの機会を確保していくことはとても良いと思いました。就職してからのビジョンが描けるような学びができると、学生の安心にもつながると思います。
- ・学校関係者の努力で目標が達成されていると思う。今後も続けてもらいたい。

7. まとめ

今回の評価で委員の方々からいただいた多くの意見・提案は、来年度の学校運営・教育内容に反映させていく。

高評価をいただいた項目もあるが、ご指摘を受けた事項については、順次対応を検討しながら、今後のより良い学校、充実した授業内容にするために役立てる。

以上